

平成17年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	箇所	箇所名	市町村名	再評価理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用便益分析結果 コスト削減の可能性 代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見等	
						採択年	総事業費	進捗率					事業進捗内容
							工事費	進捗率					
目標年	用地費	進捗率											
道路事業		一般国道36 85号員弁バイ パス	いなべ市 ～四日市 市		<p>【全体事業概要】</p> <p>延長 12.0km 幅員(2/4) 14.0(25.0)m 道路改良工 10,950m 橋梁工(本線) 6橋(1000m) 橋梁工(支線) 2橋(190m)</p>	S59	18,111	97.0%	<p>平成17年度末までに、9.6kmの部分供用済み</p> <p>【市町村合併】 平成15年12月1日、員弁郡旧4町(員弁町、藤原町、大安町、北勢町)が合併し、いなべ市が誕生した。市町村合併を支援する道路として整備が急がれる。</p> <p>【物流の効率化】 物流の効率化の面から四日市港、東名阪自動車道、国道23号等へのアクセス道路として早急な整備が求められている。</p>	<p>【費用便益比】 B/C=7.6</p> <p>【コスト削減】 他工事での発生残土を盛土材として利用し、残る区間だけでも1億円以上のコスト削減が見込む。</p>	平成19年度に全線供用予定。	<p>審査を行った結果、事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。 ただし、次の点について意見を付するものである。</p> <p>一、今後、全体計画の工事内容について変更があった場合は、その経過について詳細に説明するべきである。</p> <p>一、道路整備は多様な目的を持っているものと考えられる。したがって、今後は、道路整備の目的を主たる目的と副たる目的に分けるとともに、効果についても定量的と定性的に分けてわかりやすく説明されたい。</p> <p>一、費用便益比については、単に計算結果表のみを添付するのではなく、その見方及び考え方を箇条書きするなどわかりやすい説明に努めるとともに、日当たり交通量及び事業費を交通車両1台当たり換算したコストを明確にされたい。</p> <p>また、11番については、総コストからトンネルにかかる費用を削除していたが、この考え方が不明瞭であった。したがって、道路事業の費用便益の考え方を改めて整理するとともに、今後は、これについてわかりやすい説明を求めるものである。</p> <p>一、コスト削減については、いつの事業実施時点に比べてどのような取り組みを行い、いくら削減したのか、について説明されたい。</p> <p>一、盛土の耐震性については、設計上の考え方を検討のうえ整理されたい。</p> <p>一、橋梁の耐久性の向上に向けて取り組まれたい。</p> <p>一、14番については、パールロードの交通量予測を含めて将来交通量を検討されたい。</p>	
							13,019	96.0%					
						H19	5,092	100.0%					
					<p>【事業目的】 北勢地域の幹線ネットワークに、東部を走る国道1号、国道23号と西部を走る国道306号、県道四日市菟野大安線(通称ミルクロード)の間に南北を結ぶ幹線道路が無いことから、当バイパスの整備により、南北幹線交通を確保し、地域の連携、産業の発展に寄与するとともに、東海環状自動車道大安IC(仮称)、東員IC(仮称)と接続することで社会経済圏の拡大を図る。</p>								

平成17年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町村名	再評価理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用便益分析結果 コスト削減の可能性 代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見等	
						採択年	総事業費	進捗率					事業進捗内容
							工事費	進捗率					
目標年	用地費	進捗率											
道路事業	9	一般国道368号仁柿峠バイパス	松阪市		<p>【全体事業概要】</p> <p>延長 3.9km 幅員 5.5(7.0)m 道路改良工 3,030m 橋梁工 7橋(623m) トンネル工 1箇所(267m)</p> <p>【事業目的】 松阪市飯南町から美杉村へ至る仁柿峠の現道は、幅員が大変狭く、屈曲した線形の未改良区間となっており、この地域の交通を分断している。そこで、これを整備することで交通分断を解消し、美杉村と南勢地域の連携を強化し、生活、産業及び社会活動の振興に寄与し、緊急輸送道路としての機能を確保する。</p>	H2	9,000	35.0%	<p>平成一6年度末までに、0.4kmの部分供用済み</p> <p>【木材コンビナートの完成】 事業着手後、松阪市に木材コンビナートが完成し、美杉村からの木材運搬ルートとして早期完成が強く望まれている。</p> <p>【松阪市合併】 平成17年1月1日、松阪市と飯南町、飯高町、嬭野町、三雲町が合併し、新松阪市が発足した。</p> <p>【津市合併】 平成18年1月1日、津市、久居市、河芸町、芸濃町、安濃町、香良洲町、一志町、白山町、美里村、美杉村が合併し、新津市が発足する。</p>	<p>【費用便益比】 B/C=1.6</p> <p>【コスト削減】 発生残土を盛土材とし、コスト削減を図る。</p>	<p>事業停滞の要因となっていた大規模法面の施工を減少させ、安定した事業進捗を見込めるトンネル・橋梁といった構造物中心のルート計画に見直しを行ったことから、工事の促進を図り平成28年度の全線供用を目指す予定。</p>	<p>審査を行った結果、事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。ただし、次の点について意見を付するものである。</p> <p>一、今後、全体計画の工事内容について変更があった場合は、その経過について詳細に説明するべきである。</p> <p>一、道路整備は多様な目的を持っているものと考えられる。したがって、今後は、道路整備の目的を主たる目的と副たる目的に分けるとともに、効果についても定量的と定性的に分けてわかりやすく説明されたい。</p> <p>一、費用便益比については、単に計算結果表のみを添付するのではなく、その見方及び考え方を箇条書きするなどわかりやすい説明に努めるとともに、日当たり交通量及び事業費を交通車両1台当たりで換算したコストを明確にされたい。</p> <p>また、11番については、総コストからトンネルにかかる費用を削除していたが、この考え方が不明瞭であった。したがって、道路事業の費用便益の考え方を改めて整理するとともに、今後は、これについてわかりやすい説明を求めるものである。</p> <p>一、コスト削減については、いつの事業実施時点に比べてどのような取り組みを行い、いくら削減したのか、について説明されたい。</p> <p>一、盛土の耐震性については、設計上の考え方を検討のうえ整理されたい。</p> <p>一、橋梁の耐久性の向上に向けて取り組まれたい。</p> <p>一、14番については、パールロードの交通量予測を含めて将来交通量を検討されたい。</p>	
						H28	450	80.0%					

平成17年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	路線	箇所名	市町村名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用便益分析結果 コスト削減の可能性 代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見等	
						採択年	総事業費	進捗率					事業進捗内容
							工事費	進捗率					
目標年	用地費	進捗率											
道路事業	10	主要地方道 鳥羽松阪線	松阪市		【全体事業概要】	H8	8,580	84.0%	未供用	平成15年度に県道御麻生豊原線が整備され、平成17年度に県道松阪環状線が完成する予定。また、国道42号松阪多気バイパスが現在整備中である。このように当事業周辺の幹線道路ネットワークが形成されつつあり、主要幹線機能を担う当該事業区間の道路整備が急がれる。	【費用対便益分析】 B / C = 3.0 【コスト削減】 別事業との工程を調整し、盛土材料や仮橋の転用などにより約2億3千万円のコスト削減が見込まれる。	平成18年度において榑田橋の前後約840mの部分供用を図る予定。残りの区間は平成22年度の供用を目指す予定。	審査を行った結果、事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。ただし、次の点について意見を付するものである。 一、今後、全体計画の工事内容について変更があった場合は、その経過について詳細に説明するべきである。 一、道路整備は多様な目的を持っているものと考えられる。したがって、今後は、道路整備の目的を主たる目的と副たる目的に分けるとともに、効果についても定量的と定性的に分けてわかりやすく説明されたい。 一、費用便益比については、単に計算結果表のみを添付するのではなく、その見方及び考え方を箇条書きするなどわかりやすい説明に努めるとともに、日当たり交通量及び事業費を交通車両1台当たり換算したコストを明確にされたい。 また、11番については、総コストからトンネルにかかる費用を削除していたが、この考え方が不明瞭であった。したがって、道路事業の費用便益の考え方を改めて整理するとともに、今後は、これについてわかりやすい説明を求めるものである。 一、コスト削減については、いつの事業実施時点に比べてどのような取り組みを行い、いくら削減したのか、について説明されたい。 一、盛土の耐震性については、設計上の考え方を検討のうえ整理されたい。 一、橋梁の耐久性の向上に向けて取り組まれた。 一、14番については、パールロードの交通量予測を含めて将来交通量を検討されたい。
					延長 1.8km 幅員 14.0(26.0)m 道路改良工 1,521m 橋梁工 1橋(279m)								
					【事業目的】 県道鳥羽松阪線は、国道23号とともに中南勢地域の交通を担う主要幹線道路であるが、榑田川を渡る榑田橋から市街地内の国道42号までの区間が混雑しており、支障をきたしている。そこで2車線から4車線へ拡幅することにより、円滑な交通の確保を図る。	H22	3,778	93.0%					

平成17年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町村名	再評価理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用便益分析結果 コスト削減の可能性 代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見等	
						採択年	総事業費	進捗率					事業進捗内容
						目標年	工事費 用地費	進捗率					
道路事業	11	一般国道422号八知山拡幅	宮川村		【全体事業概要】 延長 0.9km 幅員 6.0(8.0)m 道路改良工 509m 橋梁工 1橋(20m) トンネル工 1箇所(321m)	H7	2,010	36.0%	平成16年度末までに、0.3kmの部分供用済み 平成16年9月の台風21号の大豪雨により、当該区間が崩壊し、これより上流に位置する大杉地区集落が8日間わたり孤立し、地域の生活に多大な支障を来した。 平成18年1月に大台町との合併を控えており、行政サービスの向上・効率化支援のため早期整備が望まれている。 平成17年度末に近畿自動車道紀勢線 勢和多気JCT～大宮・大台ICまでが開通する予定で、宮川村への観光客の増加が見込まれる。	【費用便益比】 B/C=1.4 【コスト削減】 残工事は、トンネル部と橋梁部でトンネル工事で発生する残土は、他工事との調整を行いコスト削減に努める。	平成19年度に未買収地の解決を図り、平成22年度末の全線供用を図る予定。	審査を行った結果、事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。 ただし、次の点について意見を付するものである。 一、今後、全体計画の工事内容について変更があった場合は、その経過について詳細に説明するべきである。 一、道路整備は多様な目的を持っているものと考えられる。したがって、今後は、道路整備の目的を主たる目的と副たる目的に分けるとともに、効果についても定量的と定性的に分けてわかりやすく説明されたい。 一、費用便益比については、単に計算結果表のみを添付するのではなく、その見方及び考え方を簡潔書きするなどわかりやすい説明に努めるとともに、日当たり交通量及び事業費を交通車両1台当たり換算したコストを明確にされたい。 また、11番については、総コストからトンネルにかかる費用を削除していたが、この考え方が不明瞭であった。したがって、道路事業の費用便益の考え方を改めて整理するとともに、今後は、これについてわかりやすい説明を求めるものである。 一、コスト削減については、いつの事業実施時点に比べてどのような取り組みを行い、いくら削減したのか、について説明されたい。 一、盛土の耐震性については、設計上の考え方を検討のうえ整理されたい。 一、橋梁の耐久性の向上に向けて取り組まれたい。 一、14番については、パールロードの交通量予測を含めて将来交通量を検討されたい。	
					H22	64	97.0%	【事業目的】 宮川村地内の国道422号は村西部地区の集落と村役場等の位置する中心部を結び、生活圏である松阪地域とを結ぶ幹線道路であるが、区間内の八知山トンネルは崩壊の危険が発見され、平成10年2月から通行止としている。そこで、道路機能の回復を図り、幅員を拡幅することで生活道路としての円滑な交通を確保します。					

平成17年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	区	箇所名	市町村名	再評価理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用便益分析結果 コスト削減の可能性 代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見等	
						採択年	総事業費	進捗率					事業進捗内容
							工事費	進捗率					
目標年	用地費	進捗率											
道路事業	12	一般国道422号明豆拡幅	宮川村		【全体事業概要】	H8	1,220	70.0%	平成16年度末までに、0.7kmの部分供用済み	【費用便益比】 B/C=1.8 【コスト削減】 施工済み及び一部工事着手区間を除いて歩道の幅員の見直しを行い約2千万円のコスト削減をはかります。	平成20年度的全線供用に向けて事業を推進する予定。	審査を行った結果、事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。ただし、次の点について意見を付するものである。 一、今後、全体計画の工事内容について変更があった場合は、その経過について詳細に説明するべきである。 一、道路整備は多様な目的を持っているものと考えられる。したがって、今後は、道路整備の目的を主たる目的と副たる目的に分けるとともに、効果についても定量的と定性的に分けてわかりやすく説明されたい。 一、費用便益比については、単に計算結果表のみを添付するのではなく、その見方及び考え方を箇条書きするなどわかりやすい説明に努めるとともに、日当たり交通量及び事業費を交通車両1台当たり換算したコストを明確にされたい。 また、11番については、総コストからトンネルにかかる費用を削除していたが、この考え方が不明瞭であった。したがって、道路事業の費用便益の考え方を改めて整理するとともに、今後は、これについてわかりやすい説明を求めるものである。 一、コスト削減については、いつの事業実施時点に比べてどのような取り組みを行い、いくら削減したのか、について説明されたい。 一、盛土の耐震性については、設計上の考え方を検討のうえ整理されたい。 一、橋梁の耐久性の向上に向けて取り組まれたい。 一、14番については、パールロードの交通量予測を含めて将来交通量を検討されたい。	
					延長 1.3km 幅員 6.0(11.0)m 道路改良工 1,272m 橋梁工 1橋(17m)								H21
					【事業目的】 宮川村地内の国道422号は、村西部地区の集落と村役場等を結ぶ道路であるが、当該事業区間は、幅員が狭い未改良区間となっており、円滑な交通の支障となっている。また、昨年の台風21号の豪雨により一時通行不能となり、地域住民の生活に重大な影響を及ぼした。そこで、当該区間の整備を行い、円滑な交通を確保するとともに、災害に強い命の道の確保を図る。								

平成17年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	区	箇所名	市町村名	再評価理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用便益分析結果 コスト削減の可能性 代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見等	
						採択年	総事業費	進捗率					事業進捗内容
							工事費	進捗率					
目標年	用地費	進捗率											
道路事業	13	一般国道167号第二伊勢道路	鳥羽市～伊勢市		【全体事業概要】	H8	29,702	50.0%	未供用	【費用便益比】 B/C=2.3 【コスト削減】 松下ジャンクション部において、構造規格の見直しを行い、ランプ形状をコンパクト化するなど約19億円のコスト削減を図る。	平成25年の伊勢神宮第62回式年遷宮に間に合うよう平成24年の全線供用を図る予定。	審査を行った結果、事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。ただし、次の点について意見を付するものである。 一、今後、全体計画の工事内容について変更があった場合は、その経過について詳細に説明するべきである。 一、道路整備は多様な目的を持っているものと考えられる。したがって、今後は、道路整備の目的を主たる目的と副たる目的に分けるとともに、効果についても定量的と定性的に分けてわかりやすく説明されたい。 一、費用便益比については、単に計算結果表のみを添付するのではなく、その見方及び考え方を箇条書きするなどわかりやすい説明に努めるとともに、日当たり交通量及び事業費を交通車両1台当たり換算したコストを明確にされたい。 また、11番については、総コストからトンネルにかかる費用を削除していたが、この考え方が不明瞭であった。したがって、道路事業の費用便益の考え方を改めて整理するとともに、今後は、これについてわかりやすい説明を求めるものである。 一、コスト削減については、いつの事業実施時点に比べてどのような取り組みを行い、いくら削減したのか、について説明されたい。 一、盛土の耐震性については、設計上の考え方を検討のうえ整理されたい。 一、橋梁の耐久性の向上に向けて取り組まれたい。 一、14番については、パールロードの交通量予測を含めて将来交通量を検討されたい。	
					延長 7.6km 幅員 14.0(20.5)m 道路改良工 1,743m 橋梁工 4橋(959m) トンネル工 4箇所(4,898m) 松下JCT 1式(内橋梁9橋) 白木IC 1式(内橋梁1橋)								H24
					【事業目的】 伊勢地域と志摩地域を連結し、中京・関西等の大都市圏と志摩地域を高速交通で連結する「伊勢志摩連絡道路」(延長約20km)を計画決定し、伊勢二見鳥羽ラインから鳥羽市白木の現国道167号までの延長7.6kmの区間について「第二伊勢道路」として整備を進めている。この道路により、志摩地域伊勢地域の観光アクセスを向上させるほか、地域の産業の向上に寄与する。								

平成17年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	箇所	箇所名	市町村名	再評価理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用便益分析結果 コスト削減の可能性 代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見等	
						採択年	総事業費	進捗率					事業進捗内容
							工事費	進捗率					
							目標年	用地費					
道路事業	14	一般国道167号鷺方磯部バイパス	志摩市		<p>【全体事業概要】</p> <p>延長 8.2km 幅員 13.0(25.0)m 道路改良工 7,479m 橋梁工 5橋(258m) トンネル工 1箇所(413m)</p>	S61	13,346	74.0%	<p>平成16年度までに4.2kmの部分供用済み</p> <p>平成16年12月に第二名神高速道路が東名高速道路へ連結し、平成20年代初頭には第二名神高速道路が滋賀県にて名神高速道路へ連絡し、また平成17年2月には中部新国際空港が開港し、中部圏から国内外へのアクセスが改善されつつあり、観光客の増大が見込まれる。</p>	<p>【費用便益比】 B/C=1.6</p> <p>【コスト削減】 工事施工にあたっては、掘削土を盛土区間へ計画的に流用し、約2千万円コスト削減を図る。</p>	<p>平成25年の伊勢神宮第62回式年遷宮に間に合うよう平成24年の全線供用を図る予定。</p>	<p>審査を行った結果、事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。ただし、次の点について意見を付するものである。</p> <p>一、今後、全体計画の工事内容について変更があった場合は、その経過について詳細に説明するべきである。</p> <p>一、道路整備は多様な目的を持っているものと考えられる。したがって、今後は、道路整備の目的を主たる目的と副たる目的に分けるとともに、効果についても定量的と定性的に分けてわかりやすく説明されたい。</p> <p>一、費用便益比については、単に計算結果表のみを添付するのではなく、その見方及び考え方を箇条書きするなどわかりやすい説明に努めるとともに、日当たり交通量及び事業費を交通車両1台当たり換算したコストを明確にされたい。</p> <p>また、11番については、総コストからトンネルにかかる費用を削除していたが、この考え方が不明瞭であった。したがって、道路事業の費用便益の考え方を改めて整理するとともに、今後は、これについてわかりやすい説明を求めるものである。</p> <p>一、コスト削減については、いつの事業実施時点に比べてどのような取り組みを行い、いくら削減したのか、について説明されたい。</p> <p>一、盛土の耐震性については、設計上の考え方を検討のうえ整理されたい。</p> <p>一、橋梁の耐久性の向上に向けて取り組まれたい。</p> <p>一、14番については、パールロードの交通量予測を含めて将来交通量を検討されたい。</p>	
						H24	4,591	80.0%					<p>【事業目的】</p> <p>伊勢地域と志摩地域を相互に連絡する機能と中京・関西の大都市圏と志摩地域を高速交通で連結する機能を合わせた「伊勢志摩連絡道路」を計画決定し、現在その一部として、当該事業を進めている。</p> <p>観光業などの産業及び社会活動の振興に寄与するとともに、現道と交通機能を分担することにより生活道路機能を確保する。また、緊急輸送道路としての機能を向上させる。</p>

平成17年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	区	箇所名	市町村名	再評価理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用便益分析結果 コスト削減の可能性 代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見等	
						採択年	総事業費	進捗率					事業進捗内容
							工事費	進捗率					
目標年	用地費	進捗率											
道路事業	15	一般国道42号三田坂バイパス	伊賀市		【全体事業概要】	H8	10,900	19.0%	未供用	【費用便益比】 B/C=1.2 【コスト削減】 道路幅員の見直しを行うことより、約20億円のコスト削減が見込まれる。	平成17年度末に、伊賀市三田地内の延長600mの区間について供用開始をする予定。残る区間については、順次整備を行い、平成29年度の供用を図る予定。	審査を行った結果、事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。 ただし、次の点について意見を付するものである。 一、今後、全体計画の工事内容について変更があった場合は、その経過について詳細に説明するべきである。 一、道路整備は多様な目的を持っているものと考えられる。したがって、今後は、道路整備の目的を主たる目的と副たる目的に分けるとともに、効果についても定量的と定性的に分けてわかりやすく説明されたい。 一、費用便益比については、単に計算結果表のみを添付するのではなく、その見方及び考え方を箇条書きするなどわかりやすい説明に努めるとともに、日当たり交通量及び事業費を交通車両1台当たり換算したコストを明確にされたい。 また、11番については、総コストからトンネルにかかる費用を削除していたが、この考え方が不明瞭であった。したがって、道路事業の費用便益の考え方を改めて整理するとともに、今後は、これについてわかりやすい説明を求めるものである。 一、コスト削減については、いつの事業実施時点に比べてどのような取り組みを行い、いくら削減したのか、について説明されたい。 一、盛土の耐震性については、設計上の考え方を検討のうえ整理されたい。 一、橋梁の耐久性の向上に向けて取り組まれたい。 一、14番については、パールロードの交通量予測を含めて将来交通量を検討されたい。	
					延長 5.1km 幅員 6.5(12.0)m 道路改良工 2,771m 橋梁工 8橋(654m) トンネル工 1箇所(1,675m)								
					【事業目的】 伊賀市北部地域と伊賀市市街地を結ぶ重要な生活道路であるが、幅員が狭く、線形が悪い未改良区間であることから、安全で円滑な通行に支障を来している。当バイパスを整備することにより円滑な生活道路を確保するとともに、伊賀地域と滋賀県との交流の促進を図る。また、現在事業中である第二名神高速道路へのアクセス機能を向上させる。	H29	680	99.0%					

平成17年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	区	箇所名	市町村名	再評価理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用便益分析結果 コスト削減の可能性 代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見等	
						採択年	総事業費	進捗率					事業進捗内容
							工事費	進捗率					
目標年	用地費	進捗率											
道路事業	16	一般国道311号波田須磯崎バイパス	熊野市		[全体事業概要]	H2	2,500	63.0%	平成16年度までに0.8kmの部分供用済み	平成16年7月、熊野古道を含む「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録され、熊野古道へのアクセス道として早期完成が強く望まれている。	【費用便益比】 B/C=1.7 【コスト削減】 橋梁から盛土に変更し、約2億円コスト削減額を図る。	平成20年度の全線供用に向けて事業を推進する。	審査を行った結果、事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。 ただし、次の点について意見を付するものである。 一、今後、全体計画の工事内容について変更があった場合は、その経過について詳細に説明するべきである。 一、道路整備は多様な目的を持っているものと考えられる。したがって、今後は、道路整備の目的を主たる目的と副たる目的に分けるとともに、効果についても定量的と定性的に分けてわかりやすく説明されたい。 一、費用便益比については、単に計算結果表のみを添付するのではなく、その見方及び考え方を箇条書きするなどわかりやすい説明に努めるとともに、日当たり交通量及び事業費を交通車両1台当たり換算したコストを明確にされたい。 また、11番については、総コストからトンネルにかかる費用を削除していたが、この考え方が不明瞭であった。したがって、道路事業の費用便益の考え方を改めて整理するとともに、今後は、これについてわかりやすい説明を求めるものである。 一、コスト削減については、いつの事業実施時点に比べてどのような取り組みを行い、いくら削減したのか、について説明されたい。 一、盛土の耐震性については、設計上の考え方を検討のうえ整理されたい。 一、橋梁の耐久性の向上に向けて取り組まれたい。 一、14番については、パールロードの交通量予測を含めて将来交通量を検討されたい。
					延長 1.7km 幅員 6.0(8.0)m 道路改良工 1,565m トンネル工 1箇所(175m)								
					[事業目的] 当路線は、熊野灘沿岸部の集落と熊野市中心市街を結ぶ唯一の生活道路となっているが、当該区間の幅員が狭く円滑な交通の支障となっている。災害により一旦道路が寸断すると、他に迂回路が無く集落が孤立する。そこで、当該区間を整備することにより円滑な生活道路を確保するとともに、緊急輸送道路としての機能を確保し、安心して安全な地域づくりに貢献する。	H20	156	100.0%					

平成17年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町村名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用便益分析結果 コスト削減の可能性 代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見等	
						採択年	総事業費	進捗率					事業進捗内容
							工事費	進捗率					
							目標年	用地費					
海岸事業	19	五ヶ所港海岸 海岸環境整備	南伊勢町		【全体事業概要】 護岸:L= 320m 突堤:L= 245m 離岸堤:L= 163m 人工海浜:V=42,020m ³ 遊歩道:V= 5,000m ² (埋立含む) 植栽:A= 1,660m ²	H 8	1,474	74.2%	護岸 91.0% 突堤 100.0% 潜堤 51.2% 人工海浜 59.5% 遊歩道、植栽 51.0%	海水浴場の利用者人口は年々減少傾向となっており、依然として多くの人が利用している。 当事業の海水浴場は単独で存在するのではなく、海洋性レクリエーションの1つのメニューとして、他レクリエーションとの相乗効果を発揮することで、今後も利用者を確保できると考えています。	【費用便益費】 B / C = 1.78 【コスト削減】 他事業の建設発生土を流用することにより工事費約30百万円の縮減を図っている。 また、養浜量及び利便施設を見直すことにより579百万円縮減している。 【代替案の検討】 当事業を南伊勢町(旧南勢町)で実施することは妥当と考えております。	養浜や利便施設の規模やグレードを見直し、コスト削減を図り、早期に事業効果が発現出来るよう努めてまいりたい。	審査を行った結果、次の点について、不明確であった。 一、計画利用者数を踏まえた水質の変化予測(潜堤の海浜側の水質を含む) 一、養浜勾配の持続性 一、海岸の定性的な魅力 このため、国内の既存海岸の実態を調査検討のうえ、説明できる資料の提出を待って再審議とする。
							1,474	74.2%					
						H 20	-	-					

平成17年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町村名	再評価理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用便益分析結果 コスト削減の可能性 代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見等		
						採択年	総事業費	進捗率					事業進捗内容	
							工事費	進捗率						
目標年	用地費	進捗率												
都市公園事業	20	熊野灘臨海公園	紀伊長島町、海山町		<p>【全体事業概要】 整備面積 530.8ha (片上池)管理棟、木製デッキ、園地整備、橋梁整備(城の浜)オートキャンプ場、プール、体育館、温泉施設整備、園地整備、多田ヶ瀬園路整備 (大白)園地、橋梁、テニスコート、芝生広場、大白池・藤ヶ谷池整備、駐車場、野草地、収穫園、野外学習施設(三浦)展望台、園地、園路</p> <p>【事業目的】 余暇時間の増大、レクリエーション需要の拡大、大規模なレクリエーションニーズに対応してレク空間施設を公共民間協力方式により一体的に整備する。</p>	S45	16,970	86.9%	<p>(片上池) 管理棟は供用済み、平成13年度より、道の駅としての機能を追加し営業を始め、利用者を増進させている。供用面積2.2ha</p> <p>(城の浜) オートキャンプ場、プール、体育館は供用済み、供用面積39.8ha</p> <p>(大白) 園路、橋梁、芝生広場、テニスコートは整備済み、テニスコートは町の運営管理により営業されている。供用面積3.5ha</p> <p>(三浦) 展望台、園地、園路を供用済み。供用面積3.6ha</p>	<p>長時間を要しているため、社会経済情勢や利用者ニーズの変化から、公園のコンセプト、整備計画を時代に即応したものに修正する必要が生じている。</p> <p>また、「東紀州活性化」の動きが盛んになり、当公園整備は熊野古道とともに東紀州の拠点となり、活性化の一役を担うのに必要不可欠なものとなっている。</p>	<p>費用便益分析結果 (片上池) B/C=1.57 (城の浜) B/C=3.91 (大白) B/C=1.02</p> <p>コスト削減 建設コスト削減等 チェックリストにより、検討を行い、コスト削減に努めている。</p>	<p>平成12、13年の2カ年をかけて専門家を含む委員会を立ち上げ、また、地元関係者、公園に関心を持つ多くの人々の意見を把握、広範囲の情報収集を行い、基本計画を策定したところである。</p> <p>今後は、この計画に基づき、城の浜、片上池、大白地区の3地区で重点的に整備を行う。</p>	<p>審査を行った結果、前回の第5回委員会において提案された大白地区の計画内容の取り下げを了承する。</p> <p>ただし、次の点について意見を付するものである。</p> <p>一、第5回委員会での提案を、今回、白紙撤回した経緯を考えると、十分に事業のコンセプトを理解せず計画変更したものと考えられる。したがって、今後、このようなことのないような県としての事業への取り組み姿勢を整えるべきである。</p> <p>一、具体的な計画については、この公園のコンセプトを踏まえ、一部の利害関係者の意見のみに傾注することのない客観的な計画を行うべきである。</p>	
						H22	4,160	100.0%						

平成17年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(市町村事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町村名	再評価理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済状況等の動向	費用便益分析結果 コスト削減の可能性 代替案の検討等	今後の事業の見通し	委員会意見等	
						採択年	総事業費	進捗率					事業進捗内容
							工事費	進捗率					
目標年	用地費	進捗率											
都市公園事業	114	松阪市 総合運動公園	松阪市		【全体事業概要】 整備面積 A=52.5ha 調整池整備 芝生広場 多目的広場 展望広場 遊具広場 園路整備 駐車場整備 景観施設整備 便益施設 ジョギングコース デイキャンプ場 【事業目的】 松阪市民の運動・レクリエーションに対する要望や、環境、自然の大切さ、また高齢化社会へむけての健康維持を目的とする空間等の整備。	H8	6,310	35.2%	平成8年度から平成16年度末 用地取得面積 A=28.8ha	当初事業計画においては陸上競技場、野球場、プールなど高規格の施設を建設していく計画であったが社会経済情勢の大きな変化に伴い市の財政事情も大変厳しい状況となり、また今後高齢化社会を迎えるにあたり健康増進や健康維持を目的とし、自然環境を活かした手軽に利用できる施設整備が望まれている。	費用便益費 B/C=1.65 建設残土の有効利用を図る。 維持管理面でコスト削減につとめる。 ・地元住民による低コストの管理。 ・指定管理者制度の導入の検討。 代替案の検討 現在の用地取得の状況から現計画で進めることが妥当であると判断している。	用地取得済みである26.5haについて平成17年度より平成23年度までの7年間で施設整備を行い一部供用開始を行う。 施設整備区域外の計画については社会経済状況等の変化をふまえ、施設計画の検討を行っていく。	審査を行った結果、事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。
							2,940	2.4%	平成15年度 進入道路一部整備				
						H28	3,370	63.9%					

【全体事業概要】

注:再評価理由

- 事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業
- 事業採択後一定期間を経過した時点で継続中の事業
- 再評価実施後一定期間が経過している事業
- 社会経済情勢の急激な変化等により再評価を実施する必要が生じた事業